市民ライターがつくる。さがん街なかMAP

03 「看板いかが?」から60余年 街のあちこちの看板や展示物を製作

(株)アサヒ工芸社

ライター
気ままなママチャリライター
高橋香歩

成章町で親子 2 代にわたりさまざまな看板や展示会場の設営、装飾などを手がけてきたアサヒ工芸社。初代の柿原弘資さんが昭和 32 年に創業し、今は長男の誠さんが社長として受け継いでいます。お二人にそれぞれお話を聞くと、看板業界も特にこの約 30 年で製作方法が様変わりしたことが分かります。一つひとつ手書きだったものが、コンピュータを使ったカッティングシートに。そして今はインクジェットの大型印刷機でシートを出力し土台に施工するものが主流。

時代が変わっても、二次元のものを立体化するという技術はやはり特別なものです。溶接が得意な人、出力したものを貼るのが得意な人など、それぞれの持ち味を生かしながら少数精鋭で働いています。10 数年前、私が広告代理店に勤めていた時には、冬のイベントで PR 用に使う大きな「雪だるま」を丸い発泡スチロールと針金で作っていただいたこともありました。スノースプレーでかわいい仕上がりに。「昔は看板が壊れているお店に飛び込み営業をしていた」と話す弘資さん。引退された今はご自身の工房で精力的に帆船模型などを製作しています。社長の誠さんは別の趣味を持ちながらも、そのフットワークを継承し県内外のお客様に親しまれています。看板だけでなく、立体物が必要な時はぜひ相談してみたいものです。

県内外のさまざまな看板を製作。枠となる鉄の棒を切断する様子

看板は大型プリンタでシートを出力するのが現在の主流

柿原誠社長(屋外広告士・広告美術仕上げ一級技能士)と社員のみなさん

会社の2階にある先代の自宅工房。お城の模型や人形などもたくさん!

先代は、佐賀県のものづくりマイスターとして若年技能者育成に貢献

[INFORMATION] (株)アサヒ工芸社 ☎0952-23-3366●佐賀市成章町1-15

04 「理論」と「五感」で創り出された こだわりの和紅茶はいかが?

和紅茶専門店 紅葉(くれは)

ライター
屋とヨーロッパ好きな子ライター
茶圓彩

柳町にある旧森永家で和紅茶専門店「紅葉(くれは)」を切り盛りしているのが店主の岡本さん。ここは元々森永家が煙草製造業や呉服屋さんを営んでいた場所です。その後建物を佐賀市が買い取ってリノベーションすることになり、その活用者(入居者)募集で手を挙げた内の一人が、岡本さんでした。このお店で販売されている和紅茶は、岡本さんの理論的な裏打ちを支えにした五感によって、茶葉の買い付けやブレンドが行われています。また店内でも頂くことができ、淹れ方に関しても茶葉によって、お湯の温度や時間、茶葉の量、水(硬水か軟水等)、ティーカップの種類等を考慮して提供しているそう。それに加えて岡本さんはお茶の生産農家さんに直接足を運んだり、海外にも出向いて多くの知識を吸収されたりと、深いこだわりに繋がる興味深い話がたくさんでした。和紅茶は嬉野紅茶が一番人気だそうですが、他にも様々な種類の和紅茶、シロップ、コラボ商品などがずらり。茶葉自体へのこだわりはもちろん、そのパッケージや店の内装まで丁寧に作られています。また訪れたい場所になるのは間違いなしです。

店主の岡本さん

和紅茶で人気No.1の嬉野紅茶

日本古来のスパイスを使用した和風のチャイ

ティーカップの種類もいろいろ

古民家を改装した店内

[INFORMATION]
和紅茶専門店 紅葉(くれは) ☎0952-37-6718●佐賀市柳町4-7●営業時間／11:00～17:00※喫茶は13:00～17:30(OS)●定休日／月、火曜●駐車場／あり(佐賀市歴史民俗館駐車場)

05 全国的にも少なくなってきている『木地職人』とは?

村山大佛堂

ライター
街なかの愛の伝道師
庄野雄輔

村山大佛堂は仏壇、仏具、各寺院用品などを自家製造販売している、創業明治 10 年の老舗仏具専門店。この業界では、佐賀で一番長い歴史を持つ店です。今回は六代目仏師である社長の牟田守宏さんより話を伺いました。

こちらではお客さんの要望に合わせて、注文住宅と同じように一点ものの仏具や仏壇が作られていきます。大きな特徴の一つが、牟田さんご自身が木地職人であるということ。木地職人とは一つの丸太から例えば位牌などに使う積み木の状態まで加工し、漆などを塗る前の状態にする職人さん。業界では全国的にも木地製作～小売までしている店はかなり珍しいそうです。木地の作業では、まず材料の木材を 10 年以上乾燥させたものを使います。取材時に見せてもらったのは位牌の材料。水分が多いと反りや割れが発生するそうです。そして注文受けてからも 2 ～ 3 月間さらに寝かし、それから木取り(一つの板から積み木を作る作業)に三日くらい、さらに形づくるまでに結局一週間くらい、そして彫りが終わるまでにさらに一週間、木地の作業だけで合計二週間程度かかるそうです。その後の塗りの工程も三週間から1か月くらいかかり、最後に金箔を仕上げるという流れ。木取りから最終的に仕上がりまでは三、四か月ほどかかるそうです。この店では社長と先代、そして従業員さんの三人の職人がいて、10 年 20 年かけて伝統技術を身につけておられます。

仏壇は国産と海外産にも分かれ、一見同じに見えますが、細部は全く異なります。もちろんクオリティは国産が上で、価格重視かクオリティ重視か、ニーズはいろいろ。そこは一人一人の要望に合わせて、職人の目でうまく提案しているそうです。

お位牌の製作作業(彫りの工程)

屋外作業のーコマ(人天蓋の取付)

木地の材料となる木材を持つ牟田さん

最近新しくなった店舗の外観

[INFORMATION]
村山大佛堂 ☎0952-23-2372●佐賀市呉服元町8-15●営業時間／9:00～19:00●定休日／不定●駐車場／あり

06 優しい味わいの洋菓子の根底にあるのは、揺るぎない職人魂

洋菓子の北村堂

ライター
唐津の島巡り計画中
伊藤恵子

創業から 50 年以上、人々に笑顔を届けてきた洋菓子の北村堂。材料の吟味や温度管理など、日々の作業を丁寧に行うことで、味を守り続けてきました。毎日同じ味で作る苦労を尋ねたところ、「熟練です」と即答した店主の北村さん。洋菓子作りは一朝一夕で覚えられるものではありません。北村さんは佐世保での修業時代をこう語ります。「手とり足とり指導してもらえることはなく、先輩の仕事を自分の目と耳で観察しながら少しずつ覚えていきました」。生まれも育ちも佐世保の北村さんは、職人が不足する佐賀からの派遣要請を受けて「ほんの半年のつもりで」佐賀を訪れます。その後大手洋菓子店で働くうちに、自分の店を開きたいとの思いが強くなり、25 歳で奥様と共に北村堂を開業。宮崎旅行で見た青島の鬼の洗濯岩から着想したサブリナは、創業当時から人気を保つ看板商品です。

北村堂の洋菓子は、自分の個性を強く主張するような押しつけがましさはなく、素朴でありながら長く印象に残る味。飽きのこないおいしさとはこのことです。食べる者の心を優しくつかむ洋菓子が今日も北村さんの手から生まれ続けています。

様々な人との縁に支えられてきたという北村さん

サクっとさわやかとろけるクッキー

初めての食感なのに、なぜか懐かしさを感じるサブリナ

レモンの形がキュート。固すぎず香ばしいレモンサブレ

1963年創業。県内外の人に愛され続けています

[INFORMATION]
洋菓子の北村堂 ☎0952-23-2408●佐賀市高木町3-9●営業時間／9:00～12:00、14:00～17:30●定休日／日曜●駐車場／店舗西側に1台

エッセイ

お散歩して出会った街なかの職人的存在

ライター
レトロ好き転勤族
大坪美和

よりによって「職人」という言葉から連想するものは、近付き難いイメージばかりです。職人気質、職人芸…。無愛想で厳しい、といった具合…。

2月のある日、子供と一緒に街なかを散歩した時のことです。県庁を背にして県庁通りを北上。松原川を見下ろすとゆらゆらメダカが泳いでいました。疲れた～と早くも弱音を言う子供達ととぼとぼ歩いていると「美術材料」の看板の前にある"ちょっとひと休み"の張り紙が付いたベンチを発見。有り難くそこで休憩。ふと、店内の方へ目を向けると、様々な額縁の専門店のようで、職人のような出で立ちのオーナーが一人。そこへ若い女性が足早に店内に入るや否や、あっという間にビニール袋を提げて出て行きました。コンビニみたいと思ったので。自分の知らない世界のことは敬遠しがちですが、きっとあの若い女性にとってこのお店は行きつけの大切な所なのでしょう。街なかを歩き出すと、私たちの周りには職人が溢れています。鍵屋さん、基盤屋さん、うなぎ屋さん、彼らも皆職人なのです。その後歩き疲れて「しるこ一平」に入店。艶やかにたっぷりとかかった餡の甘さが、疲れを癒して行くよう。帰り際、子供と一緒にお店の人に手を振ると、何度も深くお辞儀をして下さり、職人の言葉から連想するイメージは、もはや昔のことなのだと思い知りました。彼らはもっと密接に私たちのそばにいて、日々肅々と仕事に向き合っています。街に溶け込んでいる彼らに、私たちは気付かぬうちに触れていたのだろうと思ったのでした。

※ 写真はイメージです。

パシフィック通訳・翻訳事務所
佐賀市駅前中央1-5-15 モードビル6F
通訳・翻訳 日本語 英語 中国語 韓国語 他
TEL 0952-23-1146 URL pacific.oceanppa.com
FAX 0952-23-5011 E-mail pacific@oceanppa.com
言語に関する事おまかせください。

街なかかわらばん
広告協賛募集中
街なかかわらばんとは・・・
佐賀市の街なかのお店を中心として、街で継続的に活動する面白い人々や団体にスポットを当てながら市民ライターさん達により"街なかの日常"の魅力を発掘・発信している紙メディアです。
●問合せ先／街なかかわらばん編集室(まちづくり機構ユマニテさが内)☎0952-22-7340

街なかかわらばん
市民ライター募集中!!
街なかかわらばんの市民ライターになると・・
ボランティア活動としての市民ライターを通して、取材をきっかけに様々な人のネットワークや、街なかの最新情報がゲットできるかもしれません。また参加したいときにだけ気軽に参加できるのが特徴です。
●問合せ先／街なかかわらばん編集室(まちづくり機構ユマニテさが内)
☎0952-22-7340

TOPICS

「まちなかオフィス TOJIN 館」まずは 1F に交流スペースが誕生

前号でも紹介した旧中溝豆腐物件(佐賀市唐人)のリノベーションプロジェクト。これは空家・空地問題を解決するための活動を佐賀で行う NPO「空家・空地活用サポート SAGA」が中心となって進めているプロジェクトの一つです。先月リノベの一部が完了し、「まちなかオフィス TOJIN 館」としてまずは 1 階の交流スペースが 2 月 23 日に OPEN しました。このスペースは 2 月末で閉鎖した TOJIN 茶屋に代わるコミュニティ拠点としても周囲から期待されており、既に様々なイベントやワークショップ等向けに貸し出し受付が始まっています。そして 2 階はNPO等のシェアオフィス、3 階にはフリーランスの方向けのコワーキングスペースが作られる予定で、4 月中の完成を目指して、工事が進行中です。周囲には新しい店舗も増え、動きがある唐人町。ここを起点にさらに面白いエリアになることを期待したいです。

[INFORMATION]
まちなかオフィスTOJIN館 ●佐賀市唐人2丁目5-15●問合せ先:NPO空家・空地活用サポートSAGA(☎090-6632-3643)

リノベーション後の外観

オープニングイベントの様子

リノベプロジェクトのポスター

元々の建物をうまくいかしたシンプルなデザインです

TOPICS

3月9日、唐人町に OPEN オーダースーツの専門店

写真はイメージです

チャレンジショップ外観

佐賀市唐人にあるチャレンジショップCASTに、メンズオーダースーツの専門店「The Maccheroni(マッケローニ)」がオープンしました。オーナーの野田さんはこの業界での長い経験の基、国内でも数社しかない三つ星ランクの縫製工場と提携済。当分の間はオーダースーツとシャツ、アクセサリー類の取り扱いが主となるようですが、ゆくゆくは靴等も含め、全身でジェントルマンスタイルを提案していくとのことです。

[INFORMATION]
The Maccheroni(マッケローニ) ☎050-5375-1398●佐賀市唐人1丁目5-32 1F(CAST内)●営業時間／10:00～18:30●定休日／水曜●駐車場／あり(建物裏に1台) ※来店の際は要予約